

## 「現代子ども事情フォーラム」を開催



パネルディスカッションのようす

### 【基調講演】(概要)

『若者がこれからの社会生活を円滑に営むための支援のあり方』

講師：県立福島高等学校スクールカウンセラー 鳴原 弥 氏

#### 1 人は出会いで育つことの意味

お互い人間関係を作って変えていく。困りごとを誰に助けてもらうか。たくさん誰かをもっていることが財産。

父母が子どもを教育する。教える意図がなければ教育とは言わない。

認識学習－親がやってみせ、それを子どもが学ぶ。子どもが失敗した時、親が子を殴れば、子どもはそのように学ぶ。支援を受けて子は自立する。

#### 2 自立の意味

20世紀的自立は自分で働いて生きていくこと。

21世紀的自立とは、高齢者の増加等、相互に助け合って生きていくこと。

#### 3 支援のあり方と場

##### 学校での教育

安定した子どもの心理状態をつくる必要がある。

##### コミュニティの教育

柔軟な人間関係をつくることを学んでいない。隣近所とかの有機的つながりが必要。震災時、お年寄りとか障害者の方をどうするのか。



鳴原 弥 氏の講演

支援のあり方－親が社会生活を円滑に営むために努力すること。

#### 4 現代の社会、家族そして若者

(1) 文明が進む中で、ますます孤立化が進んでいる。

それはなぜか。

##### 過剰な自意識 (自己意識、自我意識)

こんなことがあった。母親の後を泣きながらついて行く子ども。母親は子どもを残して、車に乗って走り出してしまった。私は車を止めた。「余計なことはするな」と言われた。

若者には大人のモデルが見つからない。ことばで覚えたものはすぐ忘れる。やって示したことは忘れない。

\* 参考図書

「悩む力」 姜 尚中著（集英社新書）

(2) 機能不全家族

人とつき合う術を持たない。

家族の中にリーダーがいない。リーダーとは暴君のことではない。父母のそれぞれの役割がわかっていない。一つのル

ールを持って家庭をつくる必要がある。モデルが見つからない苦悩がある。

5 重ねて支援とは

夫婦が尊敬しあって、それぞれ子どものモデルになること。バランスのとれたリーダーのいる家族。父母のようになりたいという子ども。過剰な自意識捨てる。

【パネルディスカッション】（概要）

パネリスト

【渡部 昭子氏（相馬市民生児童委員）】

現在の活動を踏まえて、幼少期の育ち、地域の役割、家庭のあり方について、話題を提供していただきました。また、計画段階から子どもを参加させることの大切さや組織の連携プレーの必要性についてお話しをいただきました。

【宮地さつき氏（本宮市スクールソーシャルワーカー）】

個とその環境の相互の影響し合う接点に介入するという、ソーシャルワークの観点から、子ども達の自立支援のために、①子どもを取り巻く大人同士が、日常的につながる、②ヘルプが出せる子どもを育てる仕組み作り、③子ども・家族の長所・強みをみつけていくことの大切さ、についてお話しをいただきました。

【根本 文弘氏（福島県青少年総合相談センター相談員）】

震災による影響も含めて、子ども・若者に多くの課題があり、その中でも特に「ひきこもり」について他県の例を示しながらお話しをいただきました。「ひきこもり」は若者だけでなく、40代、50代にも広がっている。一人ひとりが声をかけ、大人が変わることの必要性についてお話しをいただきました。

## 「平成24年度青少年健全育成県民総ぐるみ運動」 街頭啓発 会津で開催！



佐藤知事のあいさつ



会津若松四中の合唱

7月7日（土）午後1時からアピタ会津若松店舗前において、「平成24年度青少年健全育成県民総ぐるみ運動」街頭啓発が行われました。

福島県青少年健全育成推進本部長の佐藤県知事、室井会津若松市長のあいさつに続きアトラクションとして会津若松市立第四中学校合唱部による合唱が行われ、美しいハーモニーを響かせてくれました。また、会津地区青少年育成の関係団体のみなさんや一般の方がたくさん参加され盛り上がりを見せました。

### 第34回少年の主張福島県大会

日時：9月21日（金）

13:00～16:00

会場：伊達市ふるさと会館

お問い合わせは県民会議 024-546-0002

### 「大人が変わるためのセミナー

～思春期から青年期の親の心構え」

日時：10月13日（土）13:00～15:00

講演：子ども・若者の発達と言語教育

講師：鶴巻正子氏（福島大学教授）